

令和6年度 筑北村立筑北小学校 学校関係者評価

成果目標・評価の観点	①②③：児童アンケートより 1・2・3：保護者アンケートより (1)(2)(3)：教員アンケートより			
自己評価	1段:自己評価	2段:児童アンケート	または 保護者アンケート	または 教員アンケート 3段:地域アンケート結果(学校運営協議会)
自己評価	数値目標(80%または70%)に対して 100%以上→A 90%以上100%未満→B 80%以上90%未満→C 80%未満→D			
学校関係者評価	4:よくできている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない			

項	評価項目	成果目標・評価の観点	自己評価	自校の改善方策・備考	学校関係者委員会の意見	学校関係者 評価
願 い に 向 か つ て 自 ら 学 び 続 け る 児 童	学校は、学校目標や教育方針、学校での様子などを分かりやすく伝えている。	筑北小学校HPが、週に1回以上更新されている。	A	・学習の様子、給食の様子など、ほぼ毎日HPの更新を行い様子を知らせることができた。また、感染症の登校許可証をHPからダウンロードできるようにし、利便性を図った。	・学校では、教育目標に沿い、子どもたちを育てる環境作りをしていると思いますし、子どもたちからも村を愛し、村によせる思いが、伝わってきます。 ・いつまでも持ち続けて欲しいことを心から願うものです。子どもたちのため、校長先生を先頭に今後もよろしくお願いします。 ・行事や常会の回覧の便り、ホームページに給食等載せている取り組みから創意工夫している先生方の努力がうかがえました。 ・HPの更新頻度が多くなり、活動内容が見れて良いと思う。	4
			-			
			100			
		保8:学校や学級の教育活動に関する情報提供(お便り等)は役に立っていると答える保護者を80%以上にする。	A			
			97			
			100			
	学校は、子どもたちの読書活動が広がる支援ができています。	児②:読書を昨年度より進んでしていると答える児童の割合を70%以上にする。	C	・夏休み中に、職員で図書館のレイアウト変更を行った。低学年児童が、本を取りやすく移動したり、カウンター周りの書棚を移動し、子どもたちが図書館に来て本を取りやすい環境を整えた。また、図書館につながる廊下に本や児童が書いたポスターを掲示するなどして、子どもたちの足が図書館に向く工夫ができた。 ・毎週木曜日を読書デーと位置づけて、家庭で読書をするように取り組んだ。 ・時間割に図書の時間を設定して図書館で本を読む機会を増やした。 ・図書の貸し出し冊数は、2学期末で、前年度比152%と向上した。	・保護者の読書に対するとらえ方に違いがあるのではないだろうか。 ・インターネットの利用(動画視聴)により読書の時間が削られているのでは。読書の時間を確保するための手立てが必要。 ・実績として児童の貸し出し冊数が増加したことや、先生方の図書館レイアウト変更・環境整備などを大いに評価したい。	3.5
			61			
			100			
		保1:お子さんは、家庭でよく本を読んでいると答える保護者の割合を70%以上にする。	C			
			58			
			100			
		教(5):子どもたちの読書活動が広がる支援ができたと答える教員の割合を70%以上にする。	A			
			81			
			100			
	学校はICTの活用や学び合いで、学び手が主役の授業展開を行っている。	教(1):ICTの活用や学び合いで、学び手が主役の授業展開を行ったと答える教員の割合を70%以上にする。	A	・本年度は教科書改訂に伴い、デジタル教科書の導入の教科も増え、子どもたちの学びにICT活用が日常的に行われた。	・先生方の評価からICTが活用できていると判断できる。	4
			73			
			100			
		教(4):ICTを活用した授業が日常的に行えている教員の割合を70%以上にする。	A			
			85			
			100			
	子どもたちは、基本的な生活習慣(あいさつ・運動・清掃・授業への取り組み方)が身につけている。	児①:昨年度と比べて朝や休み時間など、体を動かして遊んでいるとする児童、児③学校の宿題をしているの割合を70%以上にする。	A	・昨年度より取り組んでいる全校ららんタイムでは、昨年度より走る時間を短縮し、無理なく運動することを目的にした。その分時間いっぱい走りきる児童が増えた。 ・年間通して縦割り清掃に取り組んだ。低学年児童も上級生に教わりながら、トイレ掃除などにも取り組む姿が見られた。 ・学びの改革を推進し、主体的に授業に取り組む姿が多く見られた。	・基本的な部分を大事にしてきたということで、日々の積み重ねの成果がみられる。 ・スモールステップで取り組んでいることが、子どもたちの身につけていると感じられる。	4
			85			
			100			
		教(6):子どもたちの基本的な生活習慣(あいさつ・運動・清掃・授業への取り組み)が身につくように取り組めたとする教員の割合を70%以上にする。	A			
			94			
			100			
学校は、児童に分かりやすい授業ができています。	児⑦:授業が分かりやすいと感じている児童の割合を80%以上にする。	A	・進んで勉強しているとする児童が前年度より大幅に増加した。 ・学年の実態に応じ、ペア学習、グループ学習を積極的に取り入れ、互いに教え合って理解したり、話合いを行ったりし、子どもたち同士で関わり合って進めていく授業を行うことができた。 ・学びの改革を進めるために職員研修を行い、子ども主体の学びになるように取り組んできた。	・昨年と比較すると、授業スタイルに変化が感じられました。2人～4人グループと分かれての子ども同士で学び合う姿がみられた。 ・子どもたちは十分力を出せるものを取り入れていけたらどうなのかと思います。例えばマラソン大会なども地域を巻き込んで、校外を走るコースなど、体力向上はもちろん、地域にできることは学ぶことができるように思います。 ・今年度の運動会と音楽会の開催時期での実施は良かった。 ・運動会と音楽会の時期が変わって、余裕ができたように感じました。共に楽しく鑑賞できました。子どもたちのがんばっている姿に感動しました。 ・運動会や音楽会などの発表の場しかみることができませんが、どちらも児童1人ひとりが自信を持って活動し表現できていて素晴らしいと思います。	4	
		91				
		100				
	児⑧:進んで勉強しているとする児童の割合を80%以上にする。	A				
		95				
		100				
	保9:お子さんは授業が分かりやすいと感じている保護者の割合を70%以上にする。	A				
		93				
		100				

だれとでもあいさつを交わし対話する児童		教③一人ひとりによりそった学習支援ができたとする教員の割合を70%以上にする。	A 89 100	・担任と支援員が協力し合い、学習に困難さを抱える子どもたちに寄り添った支援ができた。 ・子どもたちの適切な学びの場を保障できるよう、校内支援体制を整えることができた。	・筑北の子どもたちの為に、先生方が熱い思いで、ご指導し、育てて頂いておりますこと、心より感謝申し上げます。これからも子どもたちの心を育ててくださることよろしくお願い致します。	
	学校は、子どもたちがあいさつしあえる環境を設定している。	児⑤:友だちや先生にあいさつをしている。児⑥:地域の方にあいさつを返していると答える児童の割合を80%以上にする。 保3:お子さんは場に応じてきちんと挨拶していると答える保護者の割合を70%以上にする。 教(9):自分から積極的にこどもたちにあいさつしたり、あいさつができるように指導することができたとする教員の割合を70%以上にする。	A 85 92 B 69 92 A 89 92	・式、集会等では語先後礼のあいさつができています。 ・あいさつに関しては、子どもたちの意識は向上した一方で、保護者の割合は下がっている。子どもたちは自分ではしているつもりでも、相手には届いていないという実情があるのかもしれない。 ・あいさつは、毎年課題として上がっている部分である。今後も継続して気持ちの良いあいさつが交わされるよう、声がけしていきたい。	・あいさつについては、個人差があり、子どもたちはしているという意識があるのかもしれない。こちら側からは積極的に声をかけていきたい。 ・地域で子どもたちと会う機会が減ってきている。	4
	学校は、地域講師・外部講師等を積極的に活用したり、地域にでかけたりして、他者とつながる学習の場を設定している。	教(8):地域講師・外部講師等を積極的に活用したり、地域にでかけたりして、他者とつながる学習の場を設定できたとする教員の割合を70%以上にする。	A 77 100	・本年度も多くの地域講師・外部講師にご指導いただけた。ふるさとふれあい講座では、昔遊びにこだわらず、地域交流やキャリア形成も目的とし、新しい講座開設にあたり多くの講師の方にご協力いただいた。 ・低学年を中心に、保育園と交流し、相手意識を持った活動が行えた。来入児に運動会や音楽会にも参加してもらい、交流の場が増えた。	・保小との交流に積極的な対応をしていただきとてもありがたいです。今後もより多くのつながりを持てると思います。 ・ふるさとふれあいの集いなど、今後も保護者地域の方々が「応援団」として参加できる機会を増やして欲しいと思う。	4
	学校は、外国語に親しむ活動を行っている。	児⑩:外国語の時間に、進んで英語を使っているとする児童の割合を80%以上にする。 教(10):子どもたちが、外国語や外国の文化に親しみ、英語を話す必要性のある授業展開を考えることができたか。	A 80 100 A 80 100	・昨年度より教員の値が大幅に向上した。今年度は外国語専科は引き揚げとなったものの、ALTと担任が協力し合い授業を進めることができた。また、ALTによる特支学級での授業や、遊びの中で外国語を使う場面も見られた。	・学習面(児童会、外国語活動など)は評価が難しいため、他に資料などがあるとありがたいと思う。 ・限られた学校への訪問の中では、評価が難しい。更に訪問する機会を作っていただけばと考えますが。 ・授業参観の時に、外国語があると更に様子が分かる。 ・Englishキャンプは麻績との合同開催も考えている。	4
	学校は、ふるさと学習を探究的な学習にするための支援を行っている。	児記述:自分たちがその年に行ったふるさと学習の内容や分かったことを言ったり書けたりする児童の割合を80%以上にする。 教(12):ふるさと学習を探究的な学習にするための支援を行えたとする教員の割合を70%以上にする。	A 91 92 A 73 92	・今年度も各学年ふるさと学習に取り組んだ。大豆や白菜などの栽培や、四阿屋山登山、玉井味噌、修那羅等の見学など、子どもたちが知りたい、やりたい内容に添って学習を展開できた。	・学校よりの案内通知での参加以外、正直学校に訪問できない上に、地域に子どももいますが、休み等でも子ども、親との交流ももてないのが現状です。 ・写真で振りかえるふるさと学習でみると、地域の学習をよく行っていることが分かる。今後も大事にして欲しい。	4
	学校は、子どもたちが他者や地域に発信する場を設定している。	教(13):他者や地域に発信する場が設定できたとする教員の割合を70%以上にする。	D 50 100	・昨年度より数値が下がっている。まとめの時期は、発信の方法(発表会形式にこだわらず)についても考えていきたい。 ・ふるさと学習を通して学んだことをまとめ、廊下に掲示したことも発信にとらえない。	・各学年地域を生かした学習をされていると思います。地域の方にもっと発信すると良いと思います。 ・先生方は自分に厳しく評価していただいているが、よくやってもらっている。発信の方法はいろいろあるということなので、様々に発信して欲しい。	3
	学校は、子どもたちの自尊感情を高める支援を行っている。	児⑩:学校が楽しい、児⑪:自分のよさ、児⑫:貢献度、児⑬:夢や目標の項目で児童の肯定的回答の割合を80%以上にする。 教(14):子どもたちの自尊感情を高める支援ができたとする教員の割合を70%以上にする。	A 83 92 A 95 92	・児童項目が昨年度よりも向上した。 ・担任や支援員が児童の様子を共有し、適材適所で支援できたことが結果につながっている。	・学年により、支援児童以外にも対応の難しい子どもさんも増えてきていると思います。学校全体で考え、みていかれる体制が確保できると良いと思います。 ・子どもたちもコロナで制限されていたときより、いきいきした表情がみられ学校生活を楽しく過ごしているのではと感じました。 ・子どもの1人ひとりの主体性を大切に生かして、互い尊重し合う関係を育てていただければと思います。がんばってください。	4